

聖路加看護学会

ニュースレター

第18回聖路加看護学会学術大会を終えて 第18回聖路加看護学会学術大会事務局からの報告 第18回聖路加看護学会学術大会報告
参加者からのメッセージ 第19回聖路加看護学会学術大会のご案内
聖路加看護学会会員のみなさまへあいさつ～ 第18回聖路加看護学会総会の焦点 お知らせ 編集後記

●第18回聖路加看護学会学術大会を終えて

第18回学術大会 大会長 秋元 典子 (岡山大学大学院保健学研究科)

9月28日、さわやかな秋晴れに恵まれたこの日、第18回聖路加看護学会学術大会を開催いたしました。全国各地からご参加くださった大勢の皆様、本当にありがとうございました。さらに、この大会にお力添えくださり支えてくださった皆様、大変お世話になりありがとうございました。この大会を無事に終えることができましたことに、心から感謝申し上げます。

メインテーマは、『患者と家族の「生ききる」を支える』でした。「……切る(きる)」の意味は、杉村 泰氏が言語文化研究叢書の中で述べている通り、切断(噛み切る)、終結(思い切った)、完遂(走り切った)、極限(疲れ切った)、自信満々(言い切った)など、さまざまあります。これらを踏まえたうえで、私は「生ききる(生き切る)」は、時間軸を有した完遂の意味で使いたいと考えてメインテーマに掲げました。すなわち、自らの役割を丁寧に果たしていくこと、あるいは人生の中で起きてくることに対して途中投げせず、あきらめずに取り組む有り様、このような人間の姿を私は「生ききる」と表現したいと考えます。したがって、生ききった(生きることの完遂)後に死が到来することもあれば、限定された期間、必要とされるある行為に精一杯取り組んで結果を出す場合も「生ききる」姿です。

人々が「生ききる」ことを支える看護とは、人々の「命を守り、暮らしを支える」ことであると考えます。ただし、生ききる姿は個々の価値観が反映されるため極めて個別的で、アクティブに生きなければならないというのではなく、例えば終末期がん患者が自分らしく「生ききる」ために、1日1日の予定を立てず成り行きに任せて過ごし、あるいは、何もしないと決めて過ごすという「生ききる」姿もあることを先行研究知見は示しています。したがって、看護ケアも個別的であることが求められます。

参加者の皆様が、患者と家族の「生ききる」を支える看護とは何かを改めて自らに問いかけ、それを通して「看護とは何か」への答えを真摯に探究する1日となっていたいただけたと思っております。ご参加いただき、本当にありがとうございました。



●第18回聖路加看護学会学術大会事務局からの報告

事務局 近藤真紀子 (岡山大学大学院保健学研究科)

第18回学術大会は、聖路加看護大学から遠く離れた岡山の地に事務局を置きながらも、8名の企画委員・6名の実行委員の連携・協力の元、聖路加看護大学内の先生方の多大なるご協力により、滞りなく準備を進めることができました。

当日は、晴天と284名の多くの参加者に恵まれ、1) 大会長講演: 秋元典子大会長『看護の約束—命を守り、暮らしを支える—』、2) 特別講演: 田村恵子氏(淀川キリスト教病院)『エンド・オブ・ライフ・ケアにおける看護』、3) ランチョンセミナー: グレグ美鈴氏(神戸市看護大学)『看護師の職業的アイデンティティの形成過程』、4) 示説、5) シンポジウム: 座長: 井上智子氏(東京医科歯科大学大学院)・吉田千文氏(聖路加看護大学)、シンポジスト: 北村愛子氏(りんくう総合医療センター)・山内栄子氏(大阪医科大学)・長沢つよ氏(東京都神経難病医療ネットワーク事業)を開催し、盛況のうちに終えることができました。まさに、メインテーマ『患者と家族の「生ききる」を支える』について深く考える一日となりました。示説は、ケア技術(6題)、病いの語り/プログラム開発(5題)、教材開発(5題)、看護師の能力開発とサポート(4題)の計20題の発表があり、活発な質疑応答が行われました。また、学会開催に当たっては、出展企業3社・広告企業7社から多大なるご協力をいただきました。

第18回学術大会の特徴は、参加者284名(事前参加登録者221名、当日参加者63名)の内訳は、学会員112名・非学会員157名・大学院生13名・学部生2名であり、非学会員の参加者が比較的多いことです。大会長が岡山大学所属であることから、学術大会の名称に聖路加の冠があったとしても、誰もが参加できる学術大会であるというメッセージになったのではないかと考えます。企画については、全てのセッションにおいて、アンケート回答者の90~95%が「大変良かった」と回答しており、「メインテーマに沿った学術性の高い学会だった」などの自由記載もあることから、企画者の意図が参加者に伝わり、ほぼ目的は達成できたと評価しました。第18回聖路加看護学会学術大会にご協力くださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。



第18回 聖路加看護学会学術大会報告

[日 時] 2013年9月28日 [土] 9:00~18:30
 [会 場] 聖路加看護大学
 [大会長] 秋元 典子 (岡山大学大学院保健学研究科)
 [テーマ] 「患者と家族の「生ききる」を支える」

総 会 9:00~9:30
 アリス C. セントジョン メモリアルホール

大会長講演 9:40~10:15
 アリス C. セントジョン メモリアル
 ホール

「看護の約束
 一命を守り、暮らしを支える」
 講演者 秋元 典子
 (岡山大学大学院保健学研究科)
 司 会 菱沼 典子
 (聖路加看護大学)



大会長講演

特別講演 10:15~11:45
 アリス C. セントジョン メモリアル
 ホール
 「エンド・オブ・ライフ・ケアにお
 ける看護」

講演者 田村 恵子
 (淀川キリスト教病院看護
 部主任課長・がん看護
 CNS)
 司 会 秋元 典子
 (岡山大学大学院保健学研究科)



田村恵子氏と秋元会長

ランチョンセミナー 12:00~12:50
 301講義室
 「看護師の職業的アイデンティティの
 形成過程」 グレック美鈴



ランチョンセミナー

示 説 2F ラウンジ
 発表 13:00~14:00
 掲示 9:30~16:30

【第1群：ケア技術】

座長 菅野 久美 (千葉大学大学院看護学研究科博士後期課程)

- 看護職が行うバイタルサイン測定の実態—2001年調査との比較をふまえて—
 ○伊東美奈子¹⁾、菱沼典子¹⁾、大久保暢子¹⁾、加藤木真史¹⁾、佐居由美¹⁾、
 大橋久美子¹⁾、蜂ヶ崎令子²⁾
¹⁾ 聖路加看護大学、²⁾ 聖路加看護大学大学院博士後期課程
- 点滴スタンド使用中の危険状況に関する調査—一般病棟の看護師に対する
 全国調査から—
 ○蜂ヶ崎令子
 聖路加看護大学大学院博士後期課程
- 整形外科病棟におけるモーニングケアの実態に関する全国調査
 ○大橋久美子
 聖路加看護大学
- 排液ドレナージを留置したまま在宅療養することでの困難さに対する訪問
 看護師のとらえかたの構造
 ○安井かおり¹⁾、高橋 歩¹⁾、後藤真美子¹⁾、²⁾
¹⁾ 彦根市立病院、²⁾ 岡山大学大学院保健学研究科博士後期課程
- 地域で暮らす自立高齢者の熱中症発症状況と関連要因
 ○岡山寧子、小松光代
 京都府立医科大学
- 米国ハワイ州における Palliative care, Hospice care, Bereavement
 care の特徴
 ○小野若菜子
 聖路加看護大学

【第2群：病いの語り／プログラム開発】

座長 長江 弘子 (千葉大学大学院看護学研究科)

- ATL を発症した患者の体験
 ○橋爪可織、楠葉洋子
 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
- 進行性脳卒中患者が体験する「病の意味」—ラクナ梗塞を発症し身体障害
 を抱える患者の視座から—
 ○河島光代
 浜松医科大学医学部看護学科
- 長期休職をした男性労働者のうつ病体験の苦悩
 ○山岡由実
 神戸市看護大学

- 地域在住高齢者を対象とした包括
 転倒予防プログラム「SAFETY
 on!」の開発と転倒予防効果検証の
 ためのランダム化比較試験研究プ
 ロトコル
 ○亀井智子¹⁾、梶井文子¹⁾、
 千吉良綾子¹⁾、糸井和佳²⁾、
 入江由香子³⁾、杉本知子⁴⁾、
 新野直明⁵⁾
¹⁾ 聖路加看護大学、²⁾ 同大学院、
³⁾ 高崎商科大学短大部、
⁴⁾ 千葉県立保健医療大学、⁵⁾ 桜美林大学大学院老年学



示説発表

- 地域世代間交流観察尺度 CIOS-E (暫定版) を用いた世代間交流プログラ
 ムの実施場所別の交流評価
 ○糸井和佳¹⁾、亀井智子²⁾
¹⁾ 聖路加看護大学大学院博士後期課程、²⁾ 聖路加看護大学

【第3群：教材開発】 座長 西田真寿美 (岡山大学大学院保健学研究科)

- 年代による特徴を反映させた市民向け骨粗鬆症予防のための教材にお
 ける活用評価 第1報—骨密度測定後の健康相談を利用した市民を対象に—
 ○菱沼典子¹⁾、高橋恵子¹⁾、牛山真佐子²⁾、山田雅子¹⁾、有森直子¹⁾、
 佐藤普巨¹⁾、佐藤直子¹⁾
¹⁾ 聖路加看護大学、²⁾ 聖路加健康ナビスポット
- 年代による特徴を繁栄させた市民向け骨粗鬆症予防のための教材にお
 ける活用評価 第2報—相談対応時に教材を活用した専門職を対象に—
 ○高橋恵子¹⁾、菱沼典子¹⁾、牛山真佐子²⁾、山田雅子¹⁾、有森直子¹⁾、
 佐藤普巨¹⁾、佐藤直子¹⁾
¹⁾ 聖路加看護大学、²⁾ 聖路加健康ナビスポット
- 介護者に認知症高齢者理解を促すコミュニケーション媒体としてのメモ
 リーブックの可能性
 ○山本由子¹⁾、亀井智子²⁾、梶井文子²⁾
¹⁾ 聖路加看護大学大学院、²⁾ 聖路加看護大学
- ナースのための胸膜中皮腫緩和ケアハンドブックの開発
 ○長松康子¹⁾、佐居由美¹⁾、中山祐紀子²⁾
¹⁾ 聖路加看護大学、²⁾ 越川病院
- WEB 上看護師エッセイ「今月の看護師」アクセス状況調査
 ○佐居由美、中山和弘
 聖路加看護大学

【第4群：看護師の能力開発とサポート】

座長 小山真理子 (日本赤十字広島看護大学)

- 老年看護臨地実習における看護技術に関する学生の学び—「看護技術用紙」
 の内容分析から—
 ○梶井文子¹⁾、亀井智子¹⁾、山本由子²⁾
¹⁾ 聖路加看護大学、²⁾ 聖路加看護大学大学院
- 学士号を持つ看護学生の学習経験に教育機関の種別が与える影響
 ○奥 裕美¹⁾、井部俊子²⁾、柳井晴夫²⁾
¹⁾ 聖路加看護大学看護実践開発研究センター、²⁾ 聖路加看護大学
- 看護系大学新卒看護師に求められる臨床看護実践能力：新人看護師研修担
 当者への質問紙調査結果
 ○松谷美和子¹⁾、佐居由美¹⁾、平林優子¹⁾、井部俊子¹⁾、宇都宮明美¹⁾、
 倉岡有美子¹⁾、三浦友理子¹⁾、林 智子²⁾、高屋尚子³⁾、中村めぐみ⁴⁾、
 西野理英⁴⁾、岩崎寿賀子⁴⁾、佐藤エキ子⁵⁾
¹⁾ 聖路加看護大学、²⁾ 三重大学看護学部、
³⁾ 神戸市立医療センター中央市民病院、⁴⁾ 聖路加国際病院、
⁵⁾ 勸大原総合病院
- 東日本大震災の災害支援経験による医療者のストレス
 ○新福洋子¹⁾、原田奈穂子²⁾
¹⁾ 聖路加看護大学、²⁾ ポストンカレッジ

シンポジウム 14:15~16:20
 アリス C. セントジョン メモリアル
 ホール

「「生ききる」を支える—さまざまな
 看護実践の場からの提言—」
 座長 井上 智子
 (東京医歯薬大学大学院)

座長 吉田 千文
 (聖路加看護大学)

シンポジスト
 「急性・重症患者と家族の「生き
 きる」を支える」 北村 愛子
 「声を喪失した頭頸部がん患者と家族の「生ききる」を支える」 山内 栄子
 「在宅で生活する患者と家族の「生ききる」を支える」 長沢つるよ



シンポジウム

閉会式 16:20~16:30
 アリス C. セントジョン メモリアルホール

参加者からのメッセージ

●秋元先生のご紹介で遠路参加させていただきました。気持ちに、学びに、お釣りがくるほど、たっくさんの感動を頂きました。いのちの尊厳をあらためて感じ、また、病の人に与える意味を看護師という職業をととても誇りと再認識するとともに、社会的な責任もひしひしと感じました。ご縁あれば来年の9月20日も参加したいと思いました。

(一般参加者 佐賀50代 M.S.)

●今回の学会は看護の本質にせまる内容で、とても充実していました。

(一般参加者 東京40代 K.)

●年一度の学会のために母校を訪れる喜び・期待は、今、私の生き甲斐の一つです。「生涯現役」を目指し、今日まで学んだ科学、技術、そして知恵を「自己看護」に活用しております。学会出席に刺激・意欲・希望を頂いて、私の生命力は再燃しているのですが、今大会は大会長講演を皮切りに倍増させていただきました。充実した素晴らしい一日を与えていただき、ありがとうございました。

(一般参加者 鹿児島88歳8ヶ月 今村節子)

●戦後日本の看護教育と研究成果がみられ、やっと看護について一般に理解されてきたとの感があります。聖路加看護学会の特色がよく出ていて、長い歴史の跡を確認できました。片寄らず看護界全体が協力して看護を世間に紹介してください。「生ききる」(美しい日本語でした)は死に行く本人の最後の思いでしょう。他者が唱えることはできないのではないのでしょうか。

(一般参加者)

●「生ききる」を支えるというテーマは、私にとってタイムリーなテーマでした。というのも、壮年期に入り、周囲は病を患う友人が多くなり、今までの看護経験だけでは限界を感じていました。とても現場にそった内容であり、とても学びとともに相手に添うための力となりました。ありがとうございます。

(一般参加者)

●よい学会でした。学術大会長の熱意を感じました。

(一般参加者 東京50代)

●慢性・長期療養の方々が多くなり、ますます看護の必要性・重要性が大きくなっている現在、学会に久しぶりに参加して、その様子(原点)を知ることができました。制度に任せるだけではなく、どのような支援方法があるのか、地域と臨床における看護の連携のあり方を検討する必要性を強く考えさせられました。

(一般参加者)

●バイタルサインの測定方法や判断、ケアについての調査、点滴スタンド

使用中の危険状況についての調査、モーニングケアの実態に関する調査の発表からは、結果に基づいた看護教育および実践での具体的な検討について報告がありました。この中で、対象者の背景や最新の機器等の特徴を



熱心に聴き入る参加者

踏まえた看護ケアの必要性を確認しました。排液ドレナージ留置したままの在宅療養の困難さおよび高齢者の熱中症症状状況と関連要因を明らかにした発表では、明らかとなった実態とともに看護実践への示唆についても報告されました。ハワイ州における Palliative care、Hospice care、Bereavement care の特徴では、国内での終末期看護ケアの実行可能性について発表がありました。以上、限られた時間でありましたが、大会テーマの「患者と家族の『生ききる』を支える」に繋がる看護ケアについて参加者とともに考えを深める機会となりました。

(座長 菅野久美)

●私はポスターセッションの担当でした。発表会場は多くの参加者で埋まり熱気にあふれ、研究の一つ一つが丁寧に発表されていました。群わけが学会テーマともマッチしており、看護師が行うケア技術の有効性や当事者の立場に立った介入プログラムの開発で効果的な看護介入の検証を示した研究は素晴らしいかったです。またルカナビや市民に向けた教材開発は地域への啓発普及プログラムとして有効なばかりではなく、日ごろの実践が実を結ぶ過程がよく示されていました。どれも質の高い看護実践と研究で聖路加看護大学の教育・実践の特色を生かした研究だと感じました。

(座長 長江弘子)

●市民向け骨粗鬆症予防のための教材について市民および専門職による活用評価の実態が報告されました。また、ナースのための胸膜中皮腫緩和ケアハンドブックの開発も紹介され、その活用評価がより一層求められていると思われました。さらに、認知症高齢者と介護者とのコミュニケーション媒体としてのメモリーブック、WEB 上看護師エッセイへのアクセス状況調査など、新たな可能性を示唆する教材のあり方も報告され、活発に討議されました。教材は様々な媒体を用いて開発され進化しています。看護職ならではの視点と創意工夫が効果的な実践と研究を可能にするのではないかと感じました。

(座長 西田真寿美)

第19回聖路加看護学会学術大会のご案内(第1報)

開催日：2014年9月20日(土)

大会長：森田夏実(慶應義塾大学)

会場：聖路加看護大学

テーマ：“経験”を語る、聴く、わかちあう

学術大会事務局：〒160-8582 東京都新宿区信濃町35

慶應義塾大学看護医療学部森田研究室内

先端科学技術のおかげで、人間の社会生活は便利になりました。それはワクワクする経験ももたらしてくれますが、いろいろな事がスピーディに進みすぎて、必死についていっているという感覚も免れません。

そのような激動の社会の中でも、人間としての様々な経験は、私たち人間を作り上げ、豊かな人生を編み上げていっているのです。しかし、貴重な経験をじっくりと味わい、語り、聴き、わかちあう、という時間を持っていないのが現実かも知れません。

第19回聖路加看護学会学術大会では、人々の健康と病いに関連する“経験”に焦点を当てて、参加者の皆様が互いにじっくり味わえる時間・空間にしたいと考えています。看護師としての経験を集める看護実践者、人間の身体が発しているメッセージを読み取る看護研究者をお迎えし、看護者として“経験”に向きあうことについての鼎談を企画しています。また、言葉を用いた経験の共有に留まらず、映像を用いて健康と病いの語りを共有することについてもご紹介し、人々の経験を理解すること、経験の理解を通して看護を実践することについて考えてみたいと思います。

研究発表は全て口演形式とし、研究成果の発表に留まらず、研究プロセスでの研究者の経験などもわかちあえる機会にしたいと考えています。

学術大会に参加する皆様の“経験”が、看護実践、研究、教育、また日々の生活を豊かにできる一日になる様、準備していきたいと考えております。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

法人化に向けて

聖路加看護学会 理事長 山田 雅子

猛暑に続く台風ラッシュに見舞われ、日本各地で人が自然と共存することの難しさに対峙しています。こうした事態が起こるたび、人々は住み慣れた自宅を追われます。そこまでたどり着く手段、そこで暮らすことの困難、そしてそこで起きる健康障害については、保健・福祉行政に関わる看護職のみならず、コミュニティーを共にしている多くの看護職にとって共通した看護課題であるのだと思います。

今年9月に行われた第18回聖路加看護学会学術大会では「生き生き」をテーマにして議論が展開されました。先の見えない今の時代だからこそ、自分らしく生きることによって挑戦していきたく感じました。

さて、2009年から理事長の任を仰せつかり、団体としての組織強化を大きな課題として取り組んでまいりました。先日の総会では、おかげさまで法人化に向けた具体的な手続きを取り始めるところまで準備が進んだことを皆様に報告し、2014年度総会において、一般社団法人としての定款案についてお諮りするところまでを合意といたすことができました。

任意団体から一般社団法人となることは、聖路加看護学会が団体として社会に認められ、信用が高まることは勿論ですが、一方では社会の中での責務を果たしていくことが今以上に求められてくるものと考えております。今後の看護を取り巻く大きな環境変化に遅れることなく対峙していくために、その変化をよく知り、先人たちの智恵を活用し、そして新しい看護体系を整え、人々のためにお役に立つ看護実践を作ってまいりましょう。

今後とも幅広い視点に立った看護の発展に向け、会員相互のコミュニケーションを図る場として活用していただきたく願っております。引き続きどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

お知らせ

★学術交流委員会

2013年度の学術交流会は、第18回学術大会閉会ののちに「ナースのストレス：上手に付き合うコツ」と題し、講師に聖路加国際病院サイコソングロジストの保坂隆先生をお招きして開催いたしました。2つの事例にそれぞれの世代の特徴を読み取り、相手の行動をどう理解しよう対応すればよいか、具体的に学びました。

また、同大会において、2012年度の「聖路加看護学会看護実践科学助成基金」研究助成事業に採択された方全員が研究の成果を発表されました。2013年度の採択者は2名でした。これまでの採択者と研究課題についてはHPに掲載しています。聖路加看護学会は、看護実践の向上と看護学の発展に寄与する研究への助成を今後も続けてまいります。現在2014年度の研究助成対象者の募集を行っています。皆様、奮ってご応募ください。詳しくはHPをご覧ください。

(担当理事：松谷美和子・佐藤エキ子)

★庶務

一般社団法人化にむけての準備を始めています。ホームページに進捗状況を掲載いたします。slnr@slcn.ac.jpへのご意見お待ちしております。また、勤務先(所属)、住所、メールアドレスなどの変更がありましたら、学会事務局までご連絡ください。聖路加看護学会員は聖路加看護大学図書館を使用できます。ぜひ、周囲の皆様への入会をお勧めください。

(担当理事：森 明子・佐居由美)

編集後記

今回は第18回学術大会・総会についてお伝えしました。学術大会では一般参加者からの声が多く寄せられたことが印象的でした。また総会では法人化に向けた取り組みが報告されました。変化の時を迎えていることを感じました。

(ニュースレター委員会)

■第18回聖路加看護学会総会の焦点

聖路加看護学会 森 明子、佐居由美(庶務担当)

～2015年度に一般社団法人に～

第18回聖路加看護学会総会は、2013年9月28日(土)に出席者48名、委任状提出者271名により開会されました。本年の総会では、会期変更に伴い、活動報告および、2014年度の事業計画、予算について審議されました。

本年度の総会の焦点は、聖路加看護学会の一般社団法人化です。法人化については数年にわたり理事会で検討を重ねておりましたが、このたび、評議員会での討議、承認を経て、今年度の総会にて2015年度に一般社団法人となることが承認されました。600名あまりの安定した会員数、学術交流、研究助成の実施など、社会に貢献する学術的な活動が継続されており、法人格を得るための条件は整っております。また、会計管理は今年度より公益法人会計基準に基づいた会計管理を行っており、2015年度の一般社団法人化にむけての準備は整いつつあります。法人格を得ることで社会的信頼がより確固としたものとなり、社会的活動が益々活発になるものと思われまふ。法人化準備についての進捗状況は随時、聖路加看護学会ホームページに掲載いたしますので、どうぞご意見をお寄せください。

ニュースレター・学会誌の発行、学術大会・学術交流集会の開催、看護実践科学研究の助成基金、高度実践看護の開発などの継続事業もあわせて承認されております。来年度は、学会誌の査読システムのオンライン化により投稿手続きが簡便化され、研究助成(1口10万円)も継続されます。次々期の第20回学術大会会長には、松谷美和子氏(聖路加看護大学)が推薦され承認されています。また、来年度は、役員選挙を実施いたします。会員の皆様のご投票のご協力をお願いいたします。

最後に、名誉会員であられた高橋シュン氏のご逝去に際し、追悼の意が表され閉会となりました。

★学会誌編集委員会

9月の総会で学会誌への論文投稿・査読の際の電子投稿化が承認され、これを受けて11月の理事会では投稿規定、執筆要項、投稿チェックリストの改定の承認をいただきました。

会員の皆様には、2014年4月1日投稿・査読分から新しい規定に従って論文を作成し、「聖路加看護学会オンライン投稿・査読システム」をご利用の上、論文の投稿を行っていただくことになりました。論文作成時には、このシステムの中にupされている「論文作成フォーマット」を利用していただくことができます。新しい投稿規定、オンライン投稿・査読システムの利用法については、2014年1月末発刊の学会誌にご案内します。会員の皆様からのたくさんの投稿をお待ちしています。

(委員長 亀井智子)

★会計

2012年度の会費納入率は85%でした。皆様のご協力に感謝申し上げます。会計年度は2012年度の移行期を経て、2013年度より4月～翌年3月末日締めとなりました。

2014年度は、選挙のため年会費の納期を4月末日とさせて頂きたく、払込票を同封しました。ご了承のほど、お願い申し上げます。過去の納入がお済みでない方は、本年度分と併せてお納めください。当該年度の会費納入確認後、学会誌の送付をさせていただきます。

振込先：郵便振替口座：00100-8-670371、加入者名：聖路加看護学会です。

よろしくお願ひ申し上げます。(担当理事：井部俊子・田代真理・本田晶子)